

ぶらたなす

NO.2

皐月

(さつき)

長井高等学校

図書委員会

図書館

2024.5.31

すき間時間に読書を!

青葉の候、すがすがしい青空が気持ち良い季節となりました。みなさんも徐々に新しい環境に慣れてきた頃だと思います。

さて、みなさん、日頃本と向き合う時間を作っていますか。読書をするのが大事だとわかっていてもなかなかその気になるのが難しいですね。しかし、読書は読解力や知識が身につくような学習面の効果だけでなく、ストレスが軽減される他に、これから生きていくために必要な力さえも身につけられる効果があるそうです。

部活の大会やテストも近く、忙しい時期ではありますが、時間をうまく利用して、読書に親しみ、豊かな心を創っていきましょう。
(2-2 図書委員)

図書館長より

押忍! 図書館長です。今年度から、図書館の利用率を上げるべく、ライトノベルやエッセイを新たに所蔵・貸出することにしました。本館104年の歴史が醸す学術的雰囲気を崩すことなく、それでいて、君達が気軽に読める作品を厳選しますので、ぜひ手に取って下さい。

さて、栄えある第1号は、三秋縋(みあき・すがる)の『三日間の幸福』(メディアワークス文庫)です。三秋文学に共通するのは、【(そう呼ぶにはちょっとトウが立った)ボーイ・ミーツ・ガール】、【厭世】、そして【再生】。三秋はあとがきで、「作品を通して命の価値だとか愛の力だとかについて語ろうという気は、実をいうと、更々ないのです」などとうそぶいていますが、それらの存在を、少なくとも、確信してはいるようです。

本作の主人公・クスノキには、『山月記』の李徴がオマージュされている気がします。「性、狷介、自ら恃むところ頗る厚」く、「臆病な自尊心と、尊大な羞恥心」に翻弄されるところなど、まるで瓜二つ。一方で、筋書きに注目すると、『山月記』の反転と思しき展開が見られました。読み比べてみると、双方の考察が、より深まるかも知れません。

作品自体の魅力にメディアミックスの追い風を受け、人気を不動のものとした三秋は、2018年、『君の話』(早川書房)を上梓して以降、表舞台からほとんど姿を消します。当時のインタビューで「(物語をひとつ書き上げると、)救われた(気持ちになる)と同時にモチベーションがなくなったとも感じます」と答えていましたが、溜め込んだ絶望を残らず吐き出し、空っぽになることで、逆説的に満たされてしまったのかも知れません。

今回は、試験的に、本作を含めた初期3作品を書架に加えました。これで利用率が向上したというデータが得られれば、今後、このジャンルの蔵書を充実させていくことも可能でしょう。さて、皆さんの反応や如何に。

図書委員のおすすめの本

『あなたの勉強法はどこがいけないのか』

西林克彦：著
筑摩書房

あなたは何のために毎日勉強していますか。テストで良い点数を取るため。将来お金を稼ぐため。さまざまな理由があると思います。

この本は筆者が「あなたの勉強法はどこがいけないのか」を説明してくれます。いけない勉強法とは、知識が広がらない・つながらないような勉強法です。自分の知識にツッコミを入れたり、矛盾点をついたりすることで、わかっていたはずのことがわからなくなります。そこを突破するのが勉強なのであると筆者は語ります。

ぜひこの本を読んであなたの勉強をより良いものにしてはいてはいかげしょう。